「いけいけドンドン！～蔵木の未来に向かって突っ走れ～」

吉賀町蔵木公民館

１　蔵木地区の概要

蔵木地区は、吉賀町の５つの地区の中で一番東に位置する地区である。周囲は山に囲まれ、清流高津川の水源地である。人口は６５７人、世帯数３３０世帯、高齢化率４５，９７パーセントと地域住民の約半数が高齢者である。当該地域は保育所１箇所、小学校１校、中学校１校があり、自治会数は８、地域活動団体数は１３団体ある。

しかしながら、今年度を最後に中学校が統合されることとなり、次年度から中学生は隣の校区へ通学することが決定している。

２　事業の趣旨

蔵木地区では昨年度、地域活動団体のサクラマスプロジェクト地域会議で生まれた蔵木音頭が住民にとって１つのシンボルとなっている。本事業ではこの蔵木音頭を活用した取組を通して地域を活性化する（地域課題を解決する）人づくりを考えた。公民館の妄想する、本事業を通して地域に身につけてほしいものは、「ふるさとへの愛着心の醸成」であるが、ここでは蔵木で育つ子供達の「心のふるさと」を創ることを目標とし、それに向かって住民それぞれができることを考え、アイデアを出し合い、みんなで考えることで、その過程において学びや気づき、つながりが生まれることを意図とした取組に努めた。

この取組の中で、公民館として大切にしたポイントは次の４点である。

1）多様な人と人とのつながり
2）主体的な地域住民の協力
3）大人から子どもまで楽しめる活動
4）次世代の担い手育成

特定の人材や団体に負担や責任が集中するような緊張感が漂う関係性ではなく、それぞれができることを考え、行動し、お互いに支えあう緩やかなつながりと、みんなで作り上げるスタンスを基本としてきた。こうした緩やかで安心感のある雰囲気の中において、様々な人が交じり合い、触れ合い、楽しみながらそれぞれの役割を果たし、協働していくことで地域課題の１つでもある担い手育成にもつなげ、住民の地域を愛する気持ちを膨らませることにつながればと考えてきた。

また、公民館から提案し、押し付けるようなことは行わず、住民自ら主体性を持って意見を出し合い、みんなで協議を行う中で意思決定を行うこととした。公民館はその機会の設定や声かけ、雰囲気づくり行った。

３　具体的な取組内容

（1）蔵木地区盆踊り大会（8 月 13 日）

今年度に閉校の中学校で盆踊り大会を行った。盆踊り大会は約 30 年ぶりの開催となる。

主催団体はサクラマスプロジェクト地域会議だが、小中学校教員や子供達、高校生、自治会などみんなで企画、準備、片付けまでをおこなった。中学生が司会、小学生が太鼓演奏、自治会長は駐車場係その他の団体は受付やカラオケ、照明機材等を担当した。盆踊り大会では太鼓演奏やカラオケ、福引、やぐらを囲んで蔵木音頭を踊った。

会場には地元飲食店や地域の若者達の屋店もでた。約 380 名の来場があり、会場でプチ同窓会をしている所もあった。

（蔵木地区盆踊り大会の様子）

（2）蔵木中学校舎活用視察研修（12 月）

閉校する中学校舎の活用について、広島県三次市甲奴町宇賀にある「宇賀の里」に地域住民３０名と視察研修に行った。宇賀の里は小学校舎を活用し、地域のコミュニティー施設として利用していた。施設見学後、施設関係者と参加者でディスカッションをおこなった。

（蔵木中学校舎活用視察研修の様子）

（3）蔵木音頭ＤＶＤ制作

昨年度完成した蔵木音頭を活用して蔵木の魅力を映像で発信し地区内外の人に蔵木を知ってもらい、出身者に故郷を身近に感じてもらうためＤＶＤを制作した。また、ＤＶＤ制作という共通の目的で地域の思いが一つになる事も期待する。

蔵木音頭は歌詞・作曲・歌手・振付まで全てを地域住民で担っており、出演者は地域住民だけでなく郵便局や駐在所など地域に関わる人も出演している。その他にも地域の祭りや行事の風景が入っている。

４　評価と成果

盆踊り大会やＤＶＤ制作という共通の目的に地域全体が関わった事で地域に一体感や達成感が生まれた。また、盆踊り大会は帰省者や地域住民の交流とつながりづくりの一つになった。

中学校舎活用視察研修は年配者から小学校保護者までたくさんの参加があり、視察後公民館宛に参加者から校舎活用案の手紙が届いた。一人一人が当事者意識をもっている事が分かった。

５　今後の課題と見通し

若い世代の参画を今以上に促す次の仕掛けが必要である。仕掛けの一つとして、公民館と学校のＰＴＡが連携していきたい。また、地域課題に対して当事者意識をもっている人が発言・行動しやすいよう地域全体に開けた活動をしていきたい。

（蔵木音頭 DVD 撮影の様子）

（文責：蔵木公民館主事　折口沙羅）